

「お嬢さん」は何と呼ぶ？ — “姑娘” と “小姐” —

保坂律子*

Study on the Difference Between “姑娘” (guniang) and “小姐” (xiaojie)

Ritsuko HOSAKA*

要旨

現代汉语中の“姑娘”与“小姐”都含有「お嬢さん」、「娘さん」的意思，因此初学汉语人常认为“姑娘”与“小姐”的意思一样，其实这两个词的用法并不完全相同。本论文的目的是指出这两个词在语用上的不同，以帮助初学者正确理解与应用这两个词。

0. はじめに

中国語“姑娘”、“小姐”はいずれも「お嬢さん」、「娘さん」という意味を持つ。以下の(1)、(2)では、「お嬢さん」、「娘さん」という意味で“姑娘”、“小姐”どちらの語も同じようを使用することができ、いずれの表現も自然な中国語である。

(1) 那位(姑娘/小姐)长得真漂亮。(あの(お嬢さん/娘さん)は本当に綺麗だ。)^{注1)}

(2) (姑娘/小姐)、你要哪种面料？((お嬢さん/娘さん)、どんな生地がお好みですか？)

中国語学習者は、おそらく初級段階では辞書にある日本語訳や辞書に挙げられている例文に頼って学習を進めることが多いと思われる。したがって、初級段階で両者の差異が適切に指導されなければ、上記(1)、(2)の用例からは、“姑娘”、“小姐”の二つの語は同義語であると理解してしまう。

(3) 大夫说、八十年代的(姑娘/小姐)还这么封建？脱吧、快点儿。(医者は、「80年代の(お嬢さん/娘さん)だというのに、こんなに封建的なのですか？お脱ぎなさい、さあ早く。」と言った。

(4) “(姑娘/小姐)、我送您几句话、不收钱。”于观喘吁吁站定说。(「(お嬢さん/娘さん)、あなたにお話ししましょう、お代はいりません。」于観は、はあはあと息を切らせて立ち止まって言った。)

(5) “(姑娘/小姐)、(姑娘/小姐)！”于观边跑边喊。(「(お嬢さん/娘さん)、(お嬢さん/娘さん)！」于観は走りながら叫んだ。

(6) “别着急呀、(姑娘/小姐)、！我一口气哪儿答得上来这么一大串问题。「慌てなさんな、(お嬢さん/娘さん)！話せば長いこんな大問題を、どうやったら

*人文学部 人間関係学科

一気に答えられるというのでしょうか？
できっこありませんよ。」

さらに学習が進み(3)～(6)のような小説中の用例を読み進めるレベルになっても、やはりここでもどちらの語でも使用可能な例が多いため、この段階に到って“姑娘”=“小姐”はほぼ完全に定着することになり、知らぬ間にその後の中国語の誤用を引き起こす素地ができあがる。

しかし、実際の言語生活では使用場面に多くの違いがあり、先に挙げたような同義の例ばかりではない。また両者がいずれも同じような意味で使用可能な場合でも、同義というわけではない。むしろ、二つの語はニュアンスが大きく異なることが少なくないのである。これらの語は実生活中では、特に「お嬢さん」、「娘さん」のように直接相手に呼びかけることもあるコミュニケーションに必要な呼称であることから、使用場面を間違えると中国人話者が眉をひそめるような事態を引き起こす可能性もある。

本稿は、“姑娘”、“小姐”の語の特徴を語義、用法、使用場面の変遷などから考察し、中国語での良好なコミュニケーションの資とすることを目指すものである。

1. 「私の娘」と「あなたのお嬢さん」

「お嬢さん」、「娘さん」、「娘」という日本語訳が与えられることが多い“姑娘”、“小姐”であるが、ここではまず、両者間にあるはっきりとした違いを明らかにしておきたい。

最初に、「私の娘」や「あなたのお嬢さん」のように表現することが可能な、実際の親子関係の「娘」、すなわち英語の“daughter”に相当する意味について取り上げる。実は、日本語で「娘」と訳出されていても、若い女性を指して言う「娘さん」ではなく、親に対して子である「娘」の関係を表す機能は“姑娘”だけが持つものであり、“小姐”はこの意味を持たない

のである。したがって、上記(1)～(6)とは異なり、“姑娘”が文意から親子関係で「娘」であることが明らかな次の(7)～(11)の例では“姑娘”を“小姐”に言い換えて使用することはできない。

- (7) 老王、你的(姑娘/*小姐)今年多大了？
(王さん、おたくの(お嬢さん/娘さん)は今年おいくつですか？)
- (8) 她是谁家的(姑娘/*小姐)、长得真漂亮。(あの人、どこの家の(お嬢さん/娘さん)ですか？すごい美人ですね！)
- (9) 我的二(姑娘/*小姐)都出嫁了。(うちの次女はもう嫁に行きました。)
- (10) 他们有一个儿子和一个(姑娘/*小姐)。(彼らには息子さんが一人と(お嬢さん/娘さん)が一人います。)
- (11) “……你不必请人来劝我去你家了、实话对你说、我不是个好(姑娘/*小姐)。其实、我妈根本就沒病。”「…私をあなたの家に来るように勧めてくれる必要はありません。本当のことを言うと、私はいい娘なんかじゃない。本当は、私のお母さんは病気じゃないんです。」

上記(7)～(11)のように、中国語で“daughter”(娘)を表そうとする場合、使用可能な中国語は“姑娘”だけに限られ、“小姐”を使って表すことはできない。注意すべきはこれらの場合であっても主語が一人称でなければ、つまり自分以外の親子関係では、“姑娘”の日本語訳には(10)のように「お嬢さん」、「娘さん」の両者どちらを用いても訳出可能な点である。次のa、bの“姑娘”はいずれも親子関係の娘“daughter”の意味であるが、aの自分の娘では「娘」としか訳出できないが、bのように他人の娘“daughter”では“姑娘”は「娘さん」「お嬢さん」のどちらにでも訳出できてしまう。

- a “我的姑娘” my daughter

私の（娘/*お嬢さん）

b “你的姑娘” your daughter

あなたの（娘/お嬢さん）

二つの語の大きな違いの一つは、“姑娘”だけが、親に対する「娘」を表すことができる点である。

2. 「お嬢さん」は若いのか？

ここでは、“姑娘”、“小姐”を用いて表現できる女性の対象年齢について考えてみたい。

まず“姑娘”を取り上げると、親に対する娘ではなく、「お嬢さん」、「娘さん」という意味でも用いる“姑娘”が表す対象年齢は、大雑把に言って、少女から未婚の若い女性までを指す範囲と考えてよいだろう。つまり中国語で“姑娘”と言え、そのイメージは少女から結婚適齢期の女性であると考えてよく、“姑娘”という語で呼称の対象となる具体的な年齢は15、6歳から20歳を過ぎたくらいの幅、四捨五入するとほぼ20歳に収まる幅となるのか。

ところで、“姑娘”という語には基本の年齢「幅」が想定されるが、当然その基本の幅からいささか「ずれ」がある「娘さん」や「お嬢さん」もいる。未婚であっても、常に「15、6歳から20歳過ぎくらい」のイメージ幅に収まりきらないこともままある。その場合に“姑娘”では“小”（歳が小さい）や“大”（歳が大きい）などの修飾語を加えて表現することが可能である。例えば、婚期に達しても独身であることを示す場合には“大”を加えて“大姑娘”、さらに婚期をはるかに越えているような場合には“大”の上に行く“老”（歳が行った）を加えて“老姑娘”などと言うことさえもある。ただし、この場合は面と向かって直接呼びかけに用いることができないのは当然のことで、使用の際には「陰で」こっそり噂したり、あるいは身内のことを「自嘲気味に」言ってみたりと、少々後

ろ暗いようなマイナスイメージが伴う。(12)の用例などは、まさに陰でこそこそわき話をしている場面であろう。

(12) 她四十多了、还是老(姑娘/*小姐)。(彼女は40過ぎだけれど、まだ独身だ。)

その逆に、まだ「娘」と呼ぶには幼い女の子には“姑娘”の前に“小”加えて用いることも可能である。よく見られる例としては、次の(13)のような例が挙げられる。ここでは年齢を尋ねるのに“几岁”（幾歳）という疑問詞を使っている。この“几岁”は概ね10歳に満たない子どもに歳を尋ねるときに使う言葉であり、せいぜい小学生くらいまでにしか使えない。したがって、ここでの“小姑娘”はまだ幼い女の子と分かる。(13)の“小姑娘”の場合は小さな女の子を「ちょっとお姉さん」扱いして呼びかけるため、背伸びをしたい年頃の“小姑娘”は声をかけられて、きっと嬉しい気持ちが出たはずである。一方“小姐”では「歳が小さい」という“小”や「歳が行った」という“大”の修飾を受けることはできない。

もちろん、“姑娘”が親子関係での「娘」を表す場合は、年齢とは無関係に常に「娘」であり続けるのであるから、“大”、“老”などの修飾を受けることはできない。

(13) 小(姑娘/*小姐)、你几岁了？(お嬢ちゃん、いくつになったの？)

(14) 我总觉得这个小(姑娘/*小姐)似曾相识。(私はどうもこの娘とはかつて面識があったような気がする。)

(15) “小(姑娘/*小姐) 囁囁字。”我提醒她。(「おじょうさん、話をする時には汚い言葉を使っちゃいけないよ。」、私はその娘に一声かけた。)

3. 「お嬢様」の“小姐”

ここでは“小姐”について取り上げる。先に

見たように「姑娘」の表す年齢幅がかなり限定されているのに対し、「小姐」の表す「お嬢さん」「娘さん」の指す年齢幅は「姑娘」よりはるかに広く、日本語の「お嬢さん」の語から連想される年齢を大きく超えて使われることも少なくない。その理由を探ってみよう。

すでに述べたように、日本人には「姑娘」と同義で思われがちな「小姐」であるが、確かに日本語にすれば同様に「娘」、「お嬢さん」と訳出されても、中国人にとって両者はニュアンスがかなり異なる語である。本来「小姐」は単なる「若い女性」を指す「お嬢さん」という意味はなかったからである。

中華人民共和国成立前の解放前の中国において、使用人は自分の仕える主人の妻を「太太」（奥様）と呼び、主人の娘を「小姐」（お嬢様）と呼んでいた。すなわち当時の「小姐」は年齢とは無関係な「お嬢様」という呼称であり、主家の娘に対して使われる語であったのである。したがって「姑娘」のように「小」や「大」、「老」などの修飾語を加える必要はそもそも存在しない。この語が、使用人から主家の娘に対して、階級としては下の者から上の者への呼称であることを考えれば、親が自分の娘を「私の娘」という意味で「*我的小姐」と言うことがないことも容易に説明がつく。この背景を予め知識として備えておくことが「小姐」の正しい理解のためには必須である。

さらに「小姐」は単に若い女性であれば使用可能なだけでなく、使用人を雇うようなある程度の家柄、それなりの地位が備わった家庭においてはじめて使用される特別な呼称であったことも覚えておきたい。したがって、そこでの「お嬢様」は、年齢とは切り離されたものであり、使用人から見た「奥様」、「お嬢様」という固定した関係を表すものであった。何とか日々の生活を営んでいた、当時の農民や労働者をはじめ

とする、普通の、あるいは下々の人びとには全く縁のない世界の呼称であった。これはまた、後述する「小姐」の持つクラス感へとつながるものである。

4. 「何歳」のお嬢さん

先に述べたように、「姑娘」では基本の年齢幅とのずれも「小」や「大」などを使用して表現可能なだけでなく、次の例文(16)、(17)のように、さらに詳細に「いくつの」、「何歳の」お嬢さんや娘さんなのか、具体的年齢を修飾語にとることもできる。しかし「小姐」では年齢を修飾語にとることはできない。「小姐」は第3章で述べたように、年齢とは切り離された「お嬢様」であったため、「大」や「小」をはじめ具体的年齢を修飾語にとれないのである。これに加え、語構成の面からも修飾語を伴うことが難しいことの説明ができる。つまり「小姐」という語自体に「小」が含まれることから、更に「小」を加えて修飾した場合には重音（同じ音の繰り返し）となってしまう、重音を嫌う中国語の性質からも「小」を修飾語にとることが難しいのである。

(16) 头一批来南疆的上海“知青”就是我们车队拉的，全是十七、八的（姑娘/*小姐）小伙子。（最初に南疆に来た上海の「知識青年」たちは我々の車列が運んできたのであって、みんな17、8の娘や若者たちだった。）

(17) 一个叫叶焯的十八岁（姑娘/*小姐）从借书处调到办公室，顶替了李小兰。（葉焯という18歳の娘が図書の出カウスターから事務室に異動して来て、李小蘭の後釜になった。）

5. 「庶民」の「姑娘」、「クラス感」の「小姐」

ここでは、「姑娘」と「小姐」の使用場面に

ついて焦点をあてて考察する。

“姑娘”という語は、庶民の生活場面で使われる飾り気のない言葉であり、時に方言色を帯びることもある語である。よく言えば「お嬢さん」というよりは「娘さん」というイメージ、素朴で純朴なイメージが付与されている。平たく言えば、どちらかという「垢抜けない女の子」や、農村や地方の若い女性に対しての使用が多いようだ。筆者の印象では、昨今の都会の若い女性を“姑娘”とはあまり呼ばないように思う。北京や上海などの繁華街では、すれ違いざまに思わず振り返ってしまうような洗練された身なりの女性が少なくない。だが、そのような女性に“姑娘”がわれることは、おそらくない。先に述べたように、本来は解放前の「お嬢様」としての呼称であったことが影響しているのであろう、一般庶民とは異なった「クラス感」が感じられる語でもある。

“小姐”は、解放後は英語の“Miss”に相当する語として、主に外国人女性への呼びかけに使用されるようになった。単独で呼びかけに使ったり、あるいは姓の後ろに“～小姐”を加え「ミス～」、「～さん」のように使用したりしたのである。また、解放直後は“小姐”の呼称はブルジョア的であるとして、一般には中国人同士で使用されることはなかった。しかし近年では、公的場面や職務上では外国人女性に対してだけでなく、中国人に対しても“小姐”が多用されるようになっていく。経済発展の著しい中国では、「クラス感」を女性はすでに備えているようである。これらの場面での“小姐”は「お嬢さん」というより、若い女性への「～さん」という敬称に変化している。たとえば、次の(14)、(15)のような仕事の場面では“小姐”を使用し、“姑娘”は使えない。

- (18) (小姐/*姑娘)、请问、经理办公室在哪儿？(あの、お尋ねいたしますが、

社長室はどちらでしょうか?)

- (19) 这位是我们的翻译王(小姐/*姑娘)。(こちらは私どもの通訳の王さんです。)
- (20) 幸好物理系一个姓陈的哈尔滨(姑娘/*小姐)约我进城去逛王府井、我才有了点拎包陪行的营生干。(幸いなことに、物理学科の陳というハルビン出身の女の子が私を街へ出かけて王府井を見てまわるのに誘ってくれたので、私はようやくかばん持ちの仕事ができたのだった。)

6. 時代の変化と呼称

“小姐”が中国人同士で呼びかけに使用されるようになったのは、つい最近のことである。筆者が北京に滞在中だった1980年代後半、おそらく身に着けているものや、持ち物からも明らかに外国人であると分かったからであろうか、あるいは北京が都会であったからであろうか、中国人から“小姐”と呼びかけられることはあっても、“姑娘”と呼ばれたことは一度もなかった。しかし、中国人同士で互いに“小姐”を使って呼びかけることはなかったと記憶している。

現在では、公的場面での呼びかけや、「～さん」という敬称として使用されること多い“小姐”であるが、“姑娘”にはない用法として、次のようにガイド、スチュワーデス、コンパニオンなどの職業に従事する女性を表す語を構成することがある。

- (21) 导游(小姐/*姑娘)(観光ガイド)
- (22) 礼仪(小姐/*姑娘)(コンパニオン)
- (23) 空中(小姐/*姑娘)(スチュワーデス)
- (24) 很快一位德国空中小姐走来、用英语问我是不是不太舒服。(さっとドイツ人スチュワーデスがやってきて、英語で気分が悪いのではないかと私に訊ねた。)

また“小姐”は広くサービス業に従事する女性への呼びかけにも使われている。たとえば、レストランや飲食店などでは(25)のように使用するのがふつうである。“姑娘”にこの用法はない。

(25) (小姐/*姑娘)、请来一瓶啤酒。(すみません、ビールを一本お願いします。)

7. “小姐”と呼ばれたくない?

これまで「お嬢様」や「クラス感」などという語を用いて“小姐”の語について説明してきたが、一部で“小姐”は風俗業の女性を指して使用されることがあることも指摘しておきたい。そのため“小姐”と呼ばれることを嫌う人も多い。たとえば、(25)のような場合、“小姐”を使うことを避け、(26)“服务员”、“美女”^{注2)}などの語を用いて呼びかける人もいる。

(26) (服务员/美女)、请来一瓶啤酒。(すみません、ビールを一本お願いします。)

また、先に挙げた(20)の場合、“姑娘”であればハルビンから大都市北京に出てきた素朴な娘のような印象を与えるようだが、“小姐”とした場合には、ハルビン出身の風俗嬢のような印象を持ってしまう、いう中国人もいる。

(27) 哈尔滨小姐(ハルビン女)

8. 結び

本稿では、日本語の「お嬢さん」の意味を持つ中国語“小姐”と“姑娘”について、語義、用法、使用場面などについて考察した。同義のように見える二つの語だが、“姑娘”だけが親に対する「娘」の意味を持つこと、また“姑娘”は庶民的な生活場面で使用される語であり、方言的色彩を帯びることなどを指摘した。一方“小姐”は本来使用人が主人の娘を「お嬢様」と呼ぶ呼称であったことから、新中国成立後、しばらくはブルジョワ的な語としてふつうの人々の

間では使用されない時期があった。その後、外国人女性や公的場面での呼称や敬称などに使用され、近年では中国人の間でも使用されていることを指摘した。また職業を表す語の構成成分になることも明らかにした。その一方で、“小姐”の語は風俗業の女性を連想させるものとして嫌う人もおり、“美女”のような新たな呼称も使用されるようになっていく。今後、時代とともに、中国では「お嬢さん」の呼称が、どのように変化していくのかにも注目していきたい。

中国語での良好なコミュニケーションのため、「お嬢さん」を何と呼べばよいのか、何と呼ぶべきなのか、本稿が“小姐”と“姑娘”の適切な使用の一助となればと思う。

【参考文献】

《现代汉语词典》第五版 2005年 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 商务印书馆
《1700对近义词用法对比》2005年 苗强 陈丹丹 责任编辑 北京语言文化大学出版社
《现代汉语规范词典》2010年 李行健主编 外语教学与研究出版社
「姑娘、“小姐”」保坂律子2011年「どちらがう? 似たものことば第87回」<http://www.chugokugo.com>

【用例引用】

《你不是一个俗人》王朔
《鼓书艺人》老舍
《肖尔布拉克》张贤亮
《伪币制造者》刁斗
《柏慧》张炜
《一半是火焰、一半是海水》王朔
《太阳出世》池莉

【注】

注1) 以下、訳はすべて筆者による。

注2) 中国河南省南陽市の“卧龙网”(臥竜ネット)の論壇に“姑娘・小姐・美女”に関する興味深い記事が掲載されていた。以下に引用紹介する。(訳は筆者による)

姑娘・小姐・美女 作者：柳玉印 文章来源：卧龙网 2010-7-5

姑娘、小姐、美女是对年轻女性的称呼、它反映了称呼演变的历史、贯穿着始终不变的赞美、奉承、敬重意味。

在我国古代人的日常生活中、只有官宦人家的大家闺秀和豪杰乡绅家的小家碧玉才能够使用姑娘、小姐这样的称呼、这种称呼是地位和身份的象征、寻常百姓家的年轻女子、只能直呼其名了。

记得在上世纪八十年代以前、南阳人对没有结婚的年轻女性一般都直呼其名、但是对已经结婚的年轻女子一般都称呼姑娘、相互之间的区别就在于姑娘前边的姓氏。随着时代的变迁、城市人对已经结婚的女性也逐渐直呼其名了、这样显得更亲切、更时尚。再后来老年人也逐渐地改变了对已经结婚的女性的称呼、反倒是姑娘的称呼很少听见了。

小姐的称呼在我们国家古来就有之。解放前在社会上依然流行、当然还是只有官宦人家、知识分子等家庭的年轻女子才可以称其为小姐、工农群众家的女孩仍与小姐的称呼无缘。新中国建立后、认为小姐这种称呼带有资产阶级的色彩、不适合工农群众使用、一般还是称呼姑娘、同志或者直呼其名。改革开放后、西方对年轻女性的称呼在社会时髦起来、使用小姐的称呼变成了一种流行和时尚、沿用传统称呼则被看做是守旧和落伍。

近年来、对年轻女性称呼美女的现象又逐渐流行起来、在大街上、经常可以听到人对认识或不认识的女子说、美女、请让一下好吗？美女、到那个地方怎么走啊？美女……尽管有些被称为美女的长相真的很牵强、但是你会感觉到被称为美女的效应很管用。

从姑娘到小姐、再演变到美女的称呼、始终都保持了赞美、奉承、尊敬的意涵。不管被称呼者是何身份、地位和长相、都会高兴地接受你的善意称呼。学会尊敬别人、赞美别人、赏识别人永远都不会过时的。

【訳】

“姑娘”、“小姐”、“美女”は若い女性に対する呼称だが、これらは呼称の変遷の歴史が映し出され、そこには終始変わらぬ賛美や尊敬の気持が貫かれている。わが国の昔の人々の日常生活中では、高級官吏や名家の令嬢と、貧しくともその土地の英雄の美しい娘だけが“姑娘”や“小姐”と呼ばれ、このように呼ばれることは、地位と身分の象徴であり、一般家庭の若い女性は、名前を直接呼ばれるだけでしかなかった。

確か80年代以前だったと思うが、南陽の人は未婚の若い女性に対して、ふつうは直接名前を読んでいた。既婚の若い女性には“姑娘”と呼び、苗字を前につけて“～姑娘”のようにして互いに区別していた。ところが時代の移り変わりとともに、都市に住む人たちは次第に既婚女性に対しても直接名前を呼ぶようになり、それがより親しい感じもし、流行のようでもあった。そしてその後、年配の人々も、だんだんと既婚女性の呼び方を変え、とうとう“姑娘”という呼称を聞かなくなってしまった。

“小姐”という呼称はわが国で古くからあるものである。解放前の社会では依然として広く使われていたが、もちろん、役人や知識分子の家庭の若い女性だけしか“小姐”とは呼ばれず、労働者や農民などの大衆の女子どもは“小姐”の呼称とはまったく無縁であった。新中国になってから“小姐”のような呼称はブルジョア的なニュアンスを帯びているため、労働者や農民が使うには適さず、ふつうはやはり“姑娘”

と呼んだり、“同志”と呼んだり、あるいは名前を直接呼んだりしていた。改革解放後、西洋の若い女性に対する呼称が社会ではやり“小姐”の呼称が流行し、時代の流れとなり、伝統的な呼称をそのまま使い続けることは、保守的で時代遅れだと見なされるようになった。

近年来、若い女性を“美女”と呼ぶ現象がまた次第に流行り始めてきたようだ。街でよく人々が知り合いや、見知らぬ女性に“美女、ちょっと失礼します”“美女、～へはどう行ったらいいでしょうか？”のように言うのを耳にする。“美女…”と呼ばれるには少し無理があるような容貌であっても、“美女”と呼ばれる効果は効き目があると感じるだろう。

“姑娘”から“小姐”まで、さらには“美女”に到るまでの呼称の変遷には、賛美し、尊び、敬う意味がずっと保たれている。その呼称で呼ばれる人がどのような身分、地位そして容姿であっても、喜んで善意の呼称を受け入れるだろう。人を尊敬し、人を賛美し、人の価値を認めることを身に着けるのに、遅すぎるということはないはずだから。